

特別支援教育実習9月（小学部）



8月29日（金）から9月19日（金）までの15日間、教育実習を行いました。小学部には、特別支援教育専攻の3年生の学生が7名、実習をしました。今回の実習では、子どもたちの実態を理解し、教師の立場に立って、授業を行いました。1週目は、クラスの子どもたちの好きなことや得意なことなどを知るために、子どもたちと遊んだり、一緒に勉強したりする中で、理解していきました。2、3週目には、授業を行い、より良い授業になるように、振り返りをして、改善をしていきました。子どもたちは、実習生と仲良くなり、授業でも、自分で考えたことを発表したり、力いっぱい運動したり、絵を描いたりと素敵な姿が多く見られました。

1組

<算数>数えて作ろう～
お寿司～
必要な個数のまぐろや
いかを集めて
お寿司を作りました。



<体育> ねらって
なげよう
動物などの的に向
かって、遠くまで力
いっぱいボールを
投げました。



2組

<国語> 気持ちマスターになろう
お話の登場人物の表情や気持ち
を考えました。



<国語> 場面の会話
買い物の場面での「〇と△をください。」などの言葉を学習しました。



3組

<体育>タグラグビーに挑戦しよう
友達と協力して、パスを回しながら、トライを目指して走りました。



<国語> 動きの言葉
切る、干す、混ぜるなどの言葉
について、道具を使って、学びま
した。



<図画工作> けしてかく
真っ黒な用紙に、消しゴ
ムで絵を描いて、みんな
の街を作りました。



教育実習(中学部)

8月29日から9月19日までの3週間、静岡大学教育学部特別支援教育専攻3年生の学生6名が中学部で教育実習を行いました。昨年度も、1週間の教育実習を行った学生たちです。1年ぶりに子どもたちと会い、心も身体も大きく成長していることに驚いていました。

今回の実習では、『国語・数学』の授業を計画し、実践しました。積極的に子どもたちと関わって実態把握をしたり、試行錯誤しながら指導・支援を考えたりと、“教師”としての仕事の一部を経験しました。日々の指導をする中で、子どもたちの成長に喜びを感じ、教師の仕事にやりがいを感じる実習生の姿が印象的でした。

授業の様子

【国語・数学】

2、3人の小グループで学習しています。実習生は、一つの単元を担当し、数回の授業を行いました。生徒一人一人と丁寧に向き合い、その子に合った教材や支援を考えて授業づくりをするうちに、互いに打ち解け、一緒に課題にチャレンジしたり、できた喜びを共有したりする姿が見られました。



その他の学習の様子

国語・数学以外にも、作業学習やフラワーアレンジメント教室、自立活動などの学習を子どもたちと一緒にを行いました。子どもの目線に立って支援を考えたり、チームティーチングの役割を考えながら動いたり、学びの多い3週間になったのではないのでしょうか。



教育実習（高等部）

静岡大学教育学部特別支援教育専攻の3年生6名が高等部で3週間の教育実習を行いました。高等部生徒が実習生と学習に取り組む様子を紹介します。

国語「場面に応じた敬語を使ってみよう」

場面に応じた敬語表現を知り、ロールプレイを通して相手や状況に応じた敬語を使うことを目指しました。口語表現を敬語表現に書き換えたり、上司とのやりとりを想定した場面で敬語を使って受け答えをしたりすることができました。その後の現場実習にもつながる学びとなりました。



体育「バレーボール」

バレーボールの楽しさの一つである、「ボールがつながること」をテーマに授業が進められました。ボールを捉えるときの姿勢、上げる高さ、声の掛け合いなどのポイントを意識して取り組めるようになり、落とさずに続いたり、ネットを越えてやりとりできる回数が増えたりしました。最高記録が更新できたときはみんなで称え合う姿が見られました。



作業学習【自主生産作業：農園芸班】

「お客様が欲しい野菜を考えて種をまこう」

前回の販売会で聞いた、お客様がほしい野菜について、畝の立て方や播種の方法を調べ、規格にそって作業を進めることを目指しました。小カブやほうれん草、インゲン豆などの、それぞれの畝高、畝幅、株間、まき溝について調べて播種することができました。引き続き11月の販売会に向けてみんなで協力して栽培し、お客様のニーズに応えられるようにしたいと思います。



作業学習【自主生産作業：陶芸班】

「販売会に向けて目標数を達成しよう」

～一人一人の役割を理解して、やるべきことをやりきろう～

板づくりグループ：道具を安全に使用し、手順にそって一人で作業を進め、目標数を達成することを目指しました。タイマーを活用したり、粘土の形の目安となる丸印を布に記したりすることで、生徒が自分の生産数や正しいやり方を分かって取り組む姿が多く見られました。

釉薬グループ：釉薬掛けの手順や方法、要領を覚え、一人で一連の作業を行い、目標数を達成することを目指しました。生徒一人一人の反応や難しさを感じる場面を細かく予想し、それを補うための工夫いっぱいの授業でした。

